

5

【個別支援】

継続的に問題行動が見られる子へのPBIS

沖原総太

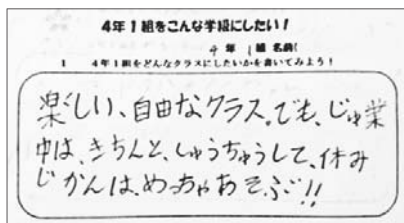
私は、教員になった初年度から小学校4年生の学級担任に。期待と不安のなか、教師生活がスタートしました。最初、チャイムと同時に授業が始められることや、ノートや教科書などについても、児童は授業準備が当たり前に見えるものと思っていました。しかし1学期、チャイムが鳴っても着席しない児童、休み時間との切り替えができない児童など、想定していなかった問題がたくさん起きてきました。

そのような中で私は、2学期からPBISに取り組みました。ここでは、学級全体で取り組むPBISに取り組んだ結果、継続的に問題行動が見られた児童Aへの個別支援実践を紹介します。

学級での第1層（グリーン）支援の取り組み

2学期のはじめ、学級全員で、クラスで大切にしたいことについて考えました（資料3-5-1）。その結果、クラスでは、「学習」「友達」「安全」の3

資料3-5-1 こんな学級にしたい！



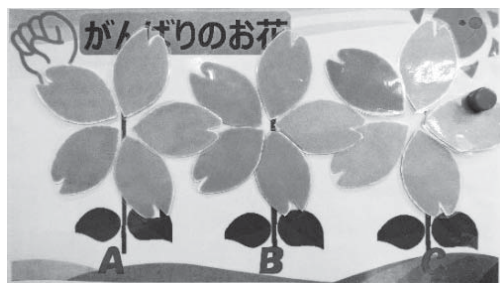
つを大切にしていこうことに決まりました。その後、子どもたちとその価値を実現するための行動について考え、行動チャート「クラスで大切にすること」（資料3-5-2）として整理しました。

学級では“3つの大切”の中でも、まず「学習」に力を入れて取り組みました。特に、授業のはじめの切り替えと準備、そして授業中の聞く姿勢を大切にすることとし、「ゲーチャレンジ」という取り組みを始めました。「ゲーチャレンジ」とは、授業開始のチャイム後、授業準備と聞く姿勢ができたなら、児童自らゲーを挙げて、教師に合図するというものです。学級を大きく3つのグループに分けて、グループ全員がゲーを挙げることができたら、「がんばりのお花」（資料3-5-3）の花びらを1枚もらえます。一日に5回はゲーを挙げる機会を設け、5枚たまると1つの花になり、その花が100枚たまったら学級でお楽しみ会をする、ということとしました。このような取り組みを通して、学級の子どもは教師の指示なく自分で授業の準備ができるようになり、授業を聞く姿勢もよくなっ

資料3-5-2 行動チャート「クラスで大切にすること」

	学習を大切にすること	友だちを大切にすること	安全を大切にすること
授業中	<ul style="list-style-type: none"> 先生や友だちの話をステキな聴き方で聴く。 手を挙げて発表をする。 ルールを守る。 しせいを正しくする。 字をていねいに書く。 班で協力して、勉強をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 班で協力して、勉強をする。 ルールを守る。 やさしい言葉を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の移動は、静かにする。 教室やろうかは歩く。 ろうかの右側を歩く。 物を大切に使う。
休み時間		<ul style="list-style-type: none"> 仲良くする。 ゆずり合いをする。 けんかをして、かいけつする。 やさしい言葉を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室は歩く。 かいだんやろうかは歩く。 水を大切にすること。 物（ボール等）を大切に使う。
給食		<ul style="list-style-type: none"> 静かに準備をする。 もぐもぐタイムになったら、静かに食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食の移動は、歩く。 食器は大切に使う。 食べ物を大切に食べる。 水を大切に使う。
そうじ		<ul style="list-style-type: none"> そうじを協力してする。 早くそうじが終わったら、教室を手伝う。 	<ul style="list-style-type: none"> そうじ道具を大切にすること。 そうじをていねいにすること。 水を大切に使う。

資料3-5-3 がんばりのお花



資料3-5-4 取り組み後の授業の様子



ていきました（資料3-5-4）。

しかし、学級のほとんどの児童の行動がよくなっていくなか、児童Aのグーを挙げる回数は、まわりの子と比べるとかなり少ないものでした。

そこで、児童Aの行動を改善していくための個別支援に取り組むこととしました。

児童Aの問題行動の種類と場面の特定

Aは、休み時間や自分の好きな教科の時間（図工や体育）は自ら取り組むことができるのですが、国語や算数などの座学中心の授業では、立ち歩き行動や私語が多く見られました。そのような行動に対して私が注意することが

資料3-5-5 個別チェックシート

個別チェックシート(CIC0)		2月(3)週目		児童名(A)		学年(4)	
日付	時間	学習	友だち	安全	合計	学習	友だち
2月13日 (月)	1-2h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	3-4h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	5-6h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	コメント	学習 友だち 安全			合計	9	9
2月14日 (火)	1-2h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	3-4h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	5-6h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	コメント	学習 友だち 安全			合計	9	9
2月15日 (水)	1-2h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	3-4h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	5-6h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	コメント	学習 友だち 安全			合計	9	9
2月16日 (木)	1-2h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	3-4h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	5-6h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	コメント	学習 友だち 安全			合計	9	9
2月17日 (金)	1-2h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	3-4h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	5-6h	0-1-2	0-1-2	0-1-2	3	3	0
	コメント	学習 友だち 安全			合計	9	9
書き方の手順		1週間合計		39		48	
①日付を書き、1日3回、3段階で個別に子どもの評価をします。		8/12		39		48	
②教室中の様子を確認します。							
③3段階の評価は(問題行動が見られ、課題が実行できていない場合)、1(問題が見られたが、課題を遂行できていない場合)、2(問題は見られず、課題ができていない場合)とします。							

多くなり、Aは徐々に私に反発するようになっていきました。私とAの関係は悪化し、指導が入りにくくなっていきました。そこで、Aにどのような支援が必要なのかを確かめるために、Aの様子を観察することにしました。

Aの日ごろの授業での様子を観察するために、資料3-5-5の個別チェックシートを用いて記録をしました(項目は行動チャートの「学習」「友だち」「安全」を使用)。個別チェックシートは1週間で1枚となっており、記録の手間を考えると2時間の授業ごとに3つの価値を3段階で評定することにしました。「0」はまったくできていない場合や問題行動が見られた場合、「1」はできている場面が見られたけれど問題行動も見られた場合、「2」

は問題行動が見られず友達への思いやり行動などいい行動が見られた場合としました。記録は2時間ごとでしたが、時間割をもとにどの教科、どの場面に問題が見られたか、いい姿が見られたかを分析しました。

その結果、国語と算数の時間では、ノートが書けないことによって授業に集中できないこと、音楽の授業前には、音楽が苦手であることから音楽室に移動することを渋り、結果として授業に遅れたり参加できなかったりすることがわかりました。私は観察によってわかったAの困り感を支援していきたいと思いました。

児童Aへの支援

授業中の学習支援

Aは黒板を見てノートに写したり、長い文章を書くことが苦手でした。そこで私は、あらかじめ穴埋め式のプリントシートを用意しました。そのシートを授業前にAに渡し、穴を埋めるように指導しました。Aは最初はクシャクシャにして捨ててしまうこともありましたが、少しずつ取り組めるようになり、授業中にAが必ず答えられる問題について質問したりしました。すると、個別支援前に比べると集中する時間が増え、友達への学習に対する妨害や立ち歩き、私語などの問題行動は少し減っていきました。

教室移動の際のサポート

音楽の授業の際、音楽室へ移動することを渋るAに対して、以前は「早く

行きなさい！」などと注意をすることばかりで、Aの気持ちに寄り添うことはありませんでした。そこで、注意ではなく、ポジティブな会話や励ましに変えてみました。

例えば、休みの日のことやAの好きなこと、私の好きなことなどを話して会話をしつつ、「何分になったら行ける?」「先生も行くから音楽室へ行ってみようか」などと言い、音楽室へ一緒に歩いていくことにしました。するとAは、みんなと行くことは難しいものの、少しずつ自分から音楽室へ足を運べるようになっていきました。

時間割を用いた前向きに授業に取り組むための話し合い

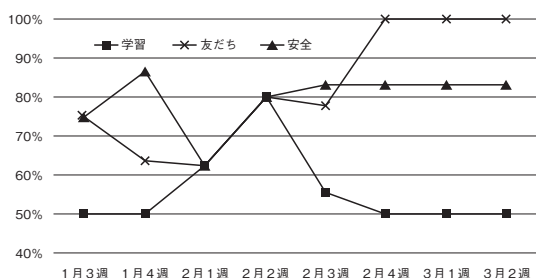
A自身が日々の授業に見通しをもって取り組めるように、時間割を用いて、どの時間は頑張れているか、どの時間が苦手かを一緒に話し合いました。

話し合いでは、「おれは今日、〇〇を頑張る」「〇〇はやらへん」などと話をしながら、自分で一日の見通しを立てました。毎日、話し合ったことと実際の授業の様子をAにフィードバックし、次はどうしていくか、何ができるかなどを話し合いました。するとAは、自分から算数の時間に集中するために「100マス計算のプリントをやりたい」と言ったりするようになり、学習に対する意欲が少しずつ見られ、集中する機会が増えました。

個別支援も学級経営の一つ

児童Aの個別チェックシートの結果では、「学習」の評定はあまり変化が見られませんでした。しかし、「友達」「安全」の評定はよくなっていきました（資料3-5-6）。「学習」については、授業中の問題行動が見られる機会は減ったものの、発表したり、班で協力したりという学級全員に求めている授業での姿はまだ見られませんでした。しかし、問題行動が減ることによって、友達とのネガティブな

資料3-5-6 児童Aのチェックシートの結果の推移



かかわりも減ってきて、Aに対するまわりの友達の見方も少しずつ改善が見られていきました。その結果、Aの行動も変わっていったように思います。

Aへの個別支援を通して、私は「この子ができるようなるためには、どうしたらよいか」という視点で取り組むことが大切だと実感しました。プリントシートづくりなど大変なこともありました。全体指導だけでなく、個別支援も学級経営の一つだということを学ぶ機会となりました。